

たむらソーシャルネット ニュース

気がつけば会社設立五年目を迎えた。という感じです。一年一年本当にその重みを感じながら一歩一歩進んでいる毎日です。

昨年は特に私たちの独自サービスを通じての出会いがありました。暮しておられる地域や場、年齢もほんとうにさまざまですが、私たちはこの仕事を通じての出会いをなにかの「縁」だと受け止めています。もちろん、それほど簡単な「縁」ではありません。なかには本当にお一人暮らしになった方もおられます。さまざま生き様を見せていただきながら、きちんと向き合わなければ、決してこちらに目を向けていただけない方々。その当たり前をどんなことがあっても辞めないこと、他の誰かが向き合うことを辞めても私たちは辞めないこと、なにかの「縁」を最後まで大切にしてください。私たちがの誇りにしていきたいと考えています。なによりも「縁」を通じての学びの大きさ

田村 満子

は何者にも変えがたいといういうことを感じています。

5年目は私達にとつて、また一層新しい出会いが期待できる一年になりそうです。新しい事務所は、周りが商店街であり、古くから暮しておられたりお店をされてこられたり、また最近新しい店を古い「長屋」を活用して始めようとしていたりといういろいろな方と、どんな出会いをすることができるのか、本当にわくわくしてきます。なによりも二階には「子供達」「お母さん」が集まってこられるようでも高齢者の多い私達の空間とどのような出会いをすることができるとか、また時間を共に重ねていくことができるのか、来年のご報告が楽しみにしています。気持ち新たに、また「一歩」新たな出会いを求めて踏み出したいと考えています。今年も皆様のご指導をよろしくお願いいたします。一度新しい私達の空間へお越しください。

福祉の海の中で

弁護士 久岡英樹様

福祉基礎構造改革の「措置から契約へ」という流れに乗り、弁護士が椰子の実よろしく福祉の世界に流れ寄るようになったのはつい五年くらい前からのことである。そのころに田村さんと出会い、その後は様々な打ち合わせでたむらソーシャルネットに行く機会が増えた。

弁護士は、依頼者の利益のために敵対する相手と闘うことを仕事としている。例えば消費者の分野では悪徳業者との闘いが日夜繰り広げられている。しかし、福祉の分野では弁護士が本来闘うべき敵の姿がしばしば見えにくい。ときには味方であるべき人と先ず信頼関係を築き上げることに苦労することになる。

田村さんと共同後見をしている人がいる。田村さんが関わっていたことから、家庭裁判所調査官面接の際にとっさに

田村さんにも後見人になってもらいたいと求め、共同後見してもらった。

後で田村さんにえらくぼやかれた。被後見人は、田村さんには気を許して何でも話をするのに、私を見るとすぐに「帰れ、帰れ」と言い、取り付く島がない。習うより慣れろの精神で、「帰れ」と言われても会いに行かないと思いつめて会いに行っているが、事態が好転する兆しは今のところない。

敵味方の識別すら定かでない福祉の世界において、たむらソーシャルネットは弁護士にとつて福祉への入り口であり、かつ福祉の総合パートナー的存在となっている。今後ともその重要性は変わることがないと考えるが、法律と福祉の連携を言う以上、いつまでもおんぶにだっこというわけにもいかないと考え、今日も「帰れ、帰れ」と言われながら本人に会いに通っている。次回も田村さんが共同後見人になってくれるという保証はないのだから。

たむらソーシャルネット活動報告

今年一年の活動報告です。昨年からは引き続き実施している活動や、昨年から少し形を変えて行っている活動もあります。

◆◆訪問介護事業◆◆

【介護保険サービス】

介護保険制度における「サービス提供事業所」の指定を大阪府より受けております。皆さまのご自宅におうかがいし、サービス提供を行います。

平成十五年十一月現在 利用者数 二四名

【介護保険外サービス】

介護保険外の介護、外出支援などを行います。施設入所されている方のキダムやなんばパークスへの外出支援や病院へ入院されている方への訪問を実施し、話相手や散歩、買い物の実行等を実施し、病院や施設にいらっしゃる方に対するサービスも実施しています。

平成十五年十一月現在 利用者数 六名

◆◆居宅介護支援◆◆

【ケアプラン作成】

ケアプランの作成 介護保険の申請代行や、介護保険でのサービスを「どこで」「どのくらい」受けるのかといったサービス計画を作成します。

平成十五年十一月現在 利用者数 三三名

◆◆サロン◆◆

生活リズムを整えるため、昼間の過ごし方を再構築するための場とし個別対応に努めております。特にプログラムを設けず、参加メンバー、天候、健康状態により過していただいております。

平成十五年十一月現在 利用者数 七名

◆◆リビングスペース◆◆

地域で、より家庭的らしく暮らしていただくために、複数の方と一緒に暮らすべく、ケアに関しては介護保険利用者

介護保険制度を優先にご利用していただいておりますが、夜間の見守りや外出支援などは、ご本人の状況に応じて当社独自の「介護サービス」「生活支援サービス」等を組み合わせて対応させていただいております。今年度は特別養護老人ホームに入所されている方をリビングスペースにお連れして、一晩外泊をいたしました。夜は地域の盆踊り大会に浴衣を着て参加されました。一人一人の希望に添えるようサービスの充実を図っております。

平成十五年十一月現在 利用者数 二名

◆◆講師派遣◆◆

さまざまな関係先で講師活動をさせていただきます。ありがとうございました。ありがとうございました。また、ご意見・ご要望などありましたら、ぜひお願い致します。

講師分類別構成比(%)

講師先	構成比
公的機関	48.5
大学	25.3
職能団体	14.7
民間	11.5

◆◆相談事業◆◆

個人や法人との契約に基づいて、年間を通じて様々な相談に応じています。今年には特にすでに施設サービスを利用されている方々からの相談に応じる機会が重なりました。

◆◆勉強会◆◆

利用者の方々へより良いサービスが提供できるよう、月に一度勉強会を実施しています。内容は調理実習や口腔ケア、成年後見制度についてなどです。外部より講師をお招きすることもあります。今後とも勉強を重ねていきたいと思います。

編集後記

ニュース発行にあたり、ご協力くださいました久岡様、柴峠様、野木様、緋田様、小西様ありがとうございました。来年は事務所も空堀商店街へと移転いたします。これからもより一層頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。

〒542-0066

大阪市中央区瓦屋町3丁目2-24

TEL 06-6766-7071

(有)たむらソーシャルネット

あまなま(あまなま)

ホームイン

◇ たむらソーシャルネット訪問介護
◇ 事業をご利用のみなさまからさま
◇ さまざまな“声”をお聞きすることがで
◇ きました。

柴峠 アヤノ様

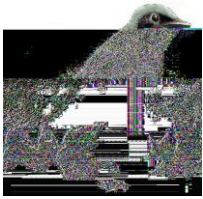
柴峠様は黒門市場のすぐ近くで、商店のビルの三階にお住まいになっています。四階五階に娘・孫家族がおられます。

柴峠様は八十七歳、この地にいられて五十年になられるそうです。家族や従業員を賄うため、毎日黒門市場に出かけ食材を買っておられたそうです。市場に同行した時は顔なじみの人が多く、次々と声をかけられます。

柴峠様の日課は近くの医院に電気治療に通うことから始まります。外出時は歩行器を使われています。圧迫骨折のあと、トイレで転倒しかかり、腰を痛め入院しました。

このことがきっかけでヘルパーが訪問するようになりました。週2回の訪問では入浴の見守りと腰痛のためできない部屋の掃除を行っていません。出来ないことをしてもらうので助かりますと話されています。

同じ世代の人が、月1回集まり外食をする十日会という集まりに参加されています。柴峠様より高齢の人にも来られるとのこと。その外食会に参加するのがとても楽しみ、と素敵な笑顔で話される柴峠様。いつまでもお元気で十日会に参加してください。



サロンスペースを利用して

たむらソーシャルネットには、平成十四年五月、他機関のサービスマスになじめない利用者の方々の生活のリズムを整え、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築するため、昼間の過ごし方を再構築ため



Aさんは平成十二年十二月に退院され、娘さんに支えられながら介護保険でのサービスマスも利用され、在宅生活でされています。それまでは短い間隔で入退院を繰り返しておられました。家事と介護をする娘さんとひと時も離れることを不安だと言われ、娘さんはこのままではもうやっていると、息が詰まると思いはじめていた丁度その時、サロンにいかげすかと声をかけられ利用し始めたそうです。

当初は週2回、現在は週3回ヘルパーがお迎えに伺い路線バスを利用してサロンに来られます。ご本人はサロンを利用したからどう変わったとか、何か出来るようになったとかということは特にはありませんが、娘さんの方はあきらめていた趣味も復活させ、また友人との交流の時間も持てるようになりました。その5時間の経つのが何と早いことか。もっと時間がほしいと思うこともしばしばだとか。

今後Aさんの希望である在宅生活を続けていくために介護保険制度と共にサロンをもっと利用していきたい、そして母はもろろん、自分もよりよく生きていきたいとおっしゃっています。

S	M	T	W	T	F	S

